

第53回 Pitch to the Minister 懇談会“HIRAI Pitch” 議事概要

1. 開催日時・出席者等

○日時：令和元年 6 月 20 日(木)10:30～11:30

○場所：中央合同庁舎 8 号館 10 階 平井国務大臣室

○Pitch テーマ：大学の研究力強化：～進化しつづける「山形モデル」で地方大学から日本を元気にする～

○招へい者：山形大学 大場好弘 副学長、高橋辰宏 有機エレクトロニクスイノベーションセンター長

○出席者：平井国務大臣、左藤副大臣、幸田内閣府審議官、住田知財局長、上山 CSTI 常勤議員、中川審議官(科技)、柳審議官(科技)、横井参事官(科技)、堀野参事官(科技)、塩田参事官(科技)、寺井秘書官、西山秘書官、柴山秘書官

2. 山形大学 からの説明

○ 山形大学では企業との大型共同研究が大きく伸びており、10年前の年2億円から現在は年10億円に達そうとしている。

○ 2009年に学長のリーダーシップのもと、世界 NO1へ勝負をかけた選択と集中を開始した。有機 EL から有機エレクトロニクス、有機材料システム、更にソフトマター、ハイブリッドと分野を広げ発展させ、世界的研究・教育拠点化を推進している。

○ 改革は、学科の壁を越えた組織改革、独自の卓越研究教授制度や企業からの事業化リーダーをスーパーイノベーター(産学連携教授)として登用する等の人事改革を行った。

○ 基礎研究をもとに社会実装までのイノベーション推進をし、競争領域の強化することで年10億円の独立採算運営が出来ている。

○ 各センターに、1分野ではなく、分野横断(高分子、化学、電気電子、機械、情報、応用生命等)で、教員・研究者が入居することで、異分野融合でのチームで、連携の相乗効果を挙げている。

3. 質疑応答・議論

○ 人事改革について、学内でできることは色々あるという意見があった。

○ 山形大学の場合、企業との連携については、ブランド力ではなく成果で企業を呼び込むことが重要との意見があった。

○ 今後の課題について、教員の意識変革をしていくこと、ポジティブに変えていくことが重要との意見があった。

(了)

(速報のため事後修正の可能性あり)